第76回 たるみず歴史・文化散歩

SUPで渡れる水中遺跡？
魚雷航跡監視台場跡

道の駅たるみずはまびらの目の前に、岩が集まった小島のようなものがあることをご存知でしょうか。実は、この岩礁は、「魚雷航跡監視台場跡」という戦争遺跡で、全国でも珍しい水中遺跡のひとつです。

今から約80年前、尾迫川から現柊原小学校のあたりまでは、旧垂水海軍航空隊が設置されていました。その主な役割は魚雷の整備や発射訓練であったと言われ、浜平地域一帯には、様々な痕跡が残っています。

水中にある魚雷航跡監視台場跡は、今の垂水南漁港（柊原）から潮彩町のあたりまでの間に複数基あったとされる戦争遺跡です。機銃掃射などを受け、元の形状はわからなくなっていますが、その土台がいくつか残っています。この台場跡は、魚雷の性能試験のために使用されていたと考えられていますが、詳しい使われ方は不明です。

ドローン等で調査をしたところ、垂水南漁港から約５００ｍという等間隔で、一直線に配置されていることがわかりました。こうした測量成果は、この岩礁が自然物ではなく、人工物であったことを示す証拠のひとつです。また、当時のことを知る方々の証言を集めた本、『戦後五十年戦争体験記』の中でも、この遺構のことが語られています。太平洋戦争末期の日本、とりわけ鹿児島県では、沖縄占領後の「本土決戦」を見据えて、様々な軍事施設がつくられました。本市にあるこの魚雷航跡監視台場跡もまた、錦江湾からくる敵船を迎撃することが大きな目標であったとされています。しかし、性能試験や発射訓練の場としては使用されたかもしれませんが、実際に戦闘で使用されることはないまま、終戦を迎えました。終戦後は、大型台風などにより瓦礫が流され、今の姿になったということです。

類似の戦争遺跡は、県内では肝付町に、九州では長崎県等にあるようですが、遺構として残存しているものは全国的にも珍しく、道の駅から容易に見学できるのは、全国でもここだけでしょう。垂水南漁港近くにも状態の良い台場跡が残っており、そこは砂浜に接しているため、干潮時には台場跡の上を歩くこともできます。

水中遺跡は、沈没船など水流によって位置が分からなくなるものや、流れのはやい川底や深い湖底にあるなどの理由で調査等が難しい遺跡が多いため、なかなか保護や活用に向けた取組が進まないという困難さがあります。その点において、砂浜からの観察や測量ができる本市の魚雷航跡監視台場跡は、調査と活用の両面において取り組みやすい遺跡と言えるでしょう。まずは本記事で、道の駅たるみずはまびらから見える景色の中にある岩礁が、歴史を語る戦争遺跡だと知っていただければ幸いです。

【参考資料】
『垂水市史料集（十三）戦後五十年戦争体験記』
垂水市教育委員会（１９９５）

▲ SUPから撮影した魚雷航跡監視台場跡

（社会教育課 文化スポーツ係）

新刊との出愛

世界を旅するワンプレートごはん

著／HOUSE × KOMORA
出版／イカロス出版

いつもの食材に少しのハーブやスパイスを加えるだけで、本格的な味わいに！カフェ「HOUSE × KOMORA」の看板メニューをベースにしたレシピ本。

免許返納を10年延ばす70歳からの運転学

著／堀川 悦夫、楠田 悦子
出版／プレジデント社

高齢者やその家族に向けて「安全に長く運転を続けるにはどうすればいいのか」を、事故データ・交通心理学・臨床経験の視点から、実践的に解説。

へんしんするゆび

作／宇田 敦子
出版／福音館書店

本には穴があいています。穴にゆびをいれてページをめくると、ソーセージからおかしへ、クレヨンへ。最後はなににになるのかな？楽しいあそび絵本。

【10月の休館日】5日（月）、13日（火）、19日（月）、26日（月）

垂水市立図書館　☎32-7111